

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



瓦ばん！

平成20年11月1日発行

発行責任者：根っから地元派 ばん よしはる

ban-4@ares.eonet.ne.jp

<http://bannara.com/>

第5号

皆様のご支援により「瓦ばん！」も五回目の発行を迎えることが出来ました。本当にありがとうございます。

さて、最近よく思うことは、今、住民力が試される時代がやってきたように思います。住民力とは、主権者である住民一人ひとりが意識をもって自治に関わっていくことです。

これからは、自己決定、自己責任を原則とする本当の地方分権時代がやってきます。

つまり、国に依存することなく、受益と負担に関する住民の選択、住民による監視を基本にした住民自治を実現することです。

つまり、地方公共団体の財政は、本来、住民やその代表である議会の監視の下にコントロールされ、健全性が確保されるべきものであると思います。

しかし、残念ながらこれまでその監視機能が必ずしも十分発揮されてきたとはいえません。今後の地方分権の推進を念頭におけば、従来にも増してできるだけ住民によるチェックという自治本来の機能を発揮することにより、地方公共団体の財政規律の強化を図っていくことが重要であるのではないのでしょうか。

この「瓦ばん！」では町議会議員の毎日の活動の中で感じたことや思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。

◆.....◆ フランクリン・ルーズベルトの言葉

昨今の、世界経済不安の関係から、1932年の大恐慌の最中で大統領に就任し、積極的に経済に介入した（ニューディール政策）フランクリン・ルーズベルトのことが書かれた記事を少し前から目にするようになりました。

今、読んでみても、ルーズベルトの言葉は真理をついている気がします。

たぶん、資本主義が進歩しても、人間の心理は変っていないのではないのでしょうか。

The only thing we have to fear is fear itself.

（唯一我々が恐れなくてはいけないのは、「恐怖」そのものである）

これは大統領就任のときの言葉。

それから、これもいい言葉です。

Men are prisoners of fate ,but only prisoners of their own minds.

（人は、運命に囚われているのではない。自分自身の心に囚われているのである）

何か、先日の総理の言葉が心に届かないと思ってしまいました・・・